

まちづくり交付金 フォローアップ報告書
八代中央地区

平成23年12月

熊本県八代市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	観光入込客数	人/年	261,747	275,000	286,273	確定 見込み ●	○	あり なし	374,709	H23年3月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	まちづくり交付金の事業効果に加え、新駅周辺に物産館などの集客施設ができたことが観光客の増加に繋がっている。
指標2	本市における購買率	%	63.1	75.0	80.5	確定 見込み ●	○	あり なし	78.6	H22年10月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	インターネット利用者の増加などで、自市内購買率は事後評価値からは減少したものの、中心市街地商店街における購買率は上昇に転じている。イベントの定着とアクセス強化事業が効果を発揮したと考える。
指標3	まちづくり活動参加者数	人/年	15	100	395	確定 見込み ●	○	あり なし	287	H22年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	中心市街地における住民主体のまちづくり活動が定着してきた。
指標4						確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標2					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標3					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

名刺

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
<ul style="list-style-type: none"> 成果を持続させるために行う方策 	本市の新たな玄関口としての新八代駅周辺の機能強化	・バス路線の見直しを行い、市内主要箇所を巡る循環型バスを導入した。	・新八代駅を含む市内主要箇所へのアクセス向上が図れた。	適宜ダイヤ改正を行い利便性の向上に努める。
	市内観光資源の掘り起こし	・「小さな感動、こころに残るおもてなし」をコンセプトとし今後の観光振興の方向性を示した観光振興計画(H23～H29)を策定した。	・地域住民、各種団体等によるワーキング会議を数回開催したことで住民本人が各地域の現状を再認識することができ、観光地としての新たな魅力(資源)を発見することができた。	・観光振興計画に定めた重点プロジェクトを中心に、より具体的な実践計画を作成中。 ・外国人誘致事業(ボランティア研修等)の実施。
	地域住民から観光客までを対象とした新たなサービスの提供	・市内中心部で開催されるお祭り、全国花火競技大会、妙見祭等イベントの充実を図った。	・市内外からの観光客の増加につながった。	・観光、交通、地域住民が一体となって観光客をおもてなしできるよう、おもてなし向上研修の実施が必要。
	市民参画によるまちづくり	教育機関(八代市内の全8高校と1高専)、農業者団体等と連携したイベント「イグスポ8246」(イグスポやつしろ)、その教育機関との連携を活かしたコミュニティスペース「まちなかホームルーム たまりんば」、若手料理人グループと連携した「八代中華街」、飲食業組合と連携した「八代はしご酒大会」など。	商店街関係者だけでなく、いろんな団体との連携が強まり、商店街の活性化に協力してもらえ環境が整ってきた。	まだまだ、イベント時など、一時的に商店街に集まる状況なので、日頃から集いの場となれるような仕組みにしていく必要がある。
改善策 <ul style="list-style-type: none"> まちづくりの目標を達成するための改善策 残された課題・新たな課題への対応策 その他 必要な改善策 	新八代駅と市内各方面を結ぶアクセス道路整備	新八代駅への南北アクセス道路として、市道北吉扇ノ江線改良工事を実施。	交差点の拡幅改良により、車輛(特に大型車)の円滑な通行が図れた。	市道北吉扇ノ江線の未改良部分(車道の舗装改良と歩道設置)の整備促進を図る。
	新たな観光商品の開発と活用・PR	・新八代駅からの二次アクセスとして、八代市内を周遊する観光バス(3系統)の運行や新たな観光ポスター、パンフレットの作成、特産物を活用した新たなおみやげ品(ばんぺい湯石けん)が開発された。	・市内周遊型の観光バスが運行されたことで、新駅からのアクセスが可能となり観光客の利便性が向上した。	実績を踏まえた魅力ある周遊ルートの検討。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告)

やつしろちゅうおう
八代中央地区

くまもと やつしろ
熊本県 八代市

平成23年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	やつしろ市 八代市	地区名	やつしろちゅうおう 八代中央地区	面積	743 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標
大目標:『新幹線の開業効果を活用した、「新駅周辺地区」・「中心市街地」・「歴史的観光拠点」の連携による賑わいの再生』

目標1	新たな玄関口としての「新駅周辺地区」と「中心市街地」及び「日奈久地域(温泉街)」の連携による観光入込客の誘致。
目標2	新駅利用者・中心市街地来街者・観光施設観光客のふれあいを基軸とした交流空間の確保による利便性・快適性の向上。
目標3	市民と行政との協働による「市民参画型まちづくり活動」の推進。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 平成16年3月に開業した九州新幹線新八代駅は、本市の中心市街地の北東約3kmに位置し、地区東側には九州縦貫自動車道八代IC及び国道3号、南側には八代ICから重要港湾八代港へのアクセス道路となる一般県道八代港線(都市計画道路八代臨港線)が走り、県南地域の交通の要衝でもある。また、開業に合わせて、幹線道路から新駅へのアクセス道路となる一般県道西片新八代停車場線や駅前広場が整備されている。駅周辺の土地利用状況は、駅西側の一部に住宅地が点在しているが、駅東側は農地が広がっている。
- 本市の中心市街地については、平成12年3月に活性化基本計画を策定し、平成13年8月にはTMOが設立され、“祭・遊・喜(さい・ゆう・き)”を基本コンセプトに、商店街との共同イベントを定期的開催しているが、中心市街地の空洞化に歯止めをかけるには至っていない。
- 本市では、平成15年4月に「新幹線やつしろ創り委員会」を設置し、新幹線開業効果を八代地域の活性化に結びつける様々な施策提言を行っている。
- 平成12年度からは、新八代駅周辺の地元地権者を対象としたアンケート及び説明会等を随時行ってきており、新駅周辺におけるまちづくりへの気運は盛り上がっている。

課題

- 九州新幹線鹿児島ルート全線開通を控え、県内外からの観光客の流入増加を目指し、中心市街地や観光地等での賑わい、活力の再生を図るため、新駅周辺・中心市街地・観光地(日奈久温泉等)の連携を強化するとともに魅力化・利便性の向上に向けた取り組みの実施が必要である。
- 新八代駅周辺地区においては、新駅を核とした新たな市の広域的玄関口として拠点の名にふさわしいまちづくりを進めるため、多様な人々が集う交流空間の創出や高質空間の形成、交通処理対策等として基盤となる道路網の整備を行う必要がある。
 - 新幹線の開業効果を八代地域の活性化に結びつけるためには、中心市街地や観光地の魅力向上に努めるとともに、新駅を起点とし、日奈久温泉地までの観光ルートの設定や、さらなる観光PRの強化を図る必要がある。
 - 中心市街地においては、新たなサービスの提供(交流空間の確保、観光案内・PRの実施、物産品の販売、イベント開催等)を図ることにより、県内外から訪れる観光客の増加に結びつけていく必要がある。
 - 新駅周辺の新たなまちづくりのあり方や、市全体の観光振興に向けての検討を進めるにあたって、市民とのパートナーシップにより、まちづくりへの理解・賛同・協力を得ていく必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- 新八代駅を玄関口とし、魅力ある中心市街地と情緒あふれる日奈久温泉を巡る新たな観光ルートを設定し、来街者・観光客の増加を図り、八代市全体の賑わい・活力がみなぎる、“九州のセンターフィールド「やつしろ」”の実現
- 八代市総合計画において、新八代駅周辺整備や日奈久地域開発、中心市街地整備については、八代市の発展を支えるリーディングプロジェクトとして位置づけられている。
 - 都市計画マスタープランにおいて、新八代駅周辺については、高速交通網を活かした情報機能、商業業務機能等の都市機能が配置されるゾーンとして位置づけられている。また、中心市街地については、本市のみならず、周辺町村を含む都市圏の魅力中心として商業業務機能やアミューズメント機能等が集積するゾーンとして、日奈久地域については、埋立地への新しい機能立地を図りつつ既存の温泉街と一体となった観光・保養ゾーンとして位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1. 観光入込客数	人/年	県外からの年間入込客数	新八代駅を起点とした観光ルートを設定し、さらには、新八代駅周辺に整備される公園等においてイベントを開催する等、対外的にPRすることにより、県外からの観光客の増加が見込まれることから指標とし、平成15年を基準に約5%増を目指す。	261,747	H15	275,000	H21
2. 本市における購買率	%	自市内で買物する割合	賑わい・活力の再生に向けた取り組みにより、本市の魅力度が高まり、中心市街地をはじめとした自市内の購買割合が高まることを見込まれることから指標とし、平成15年を基準に約20%増を目指す。	63.1%	H15	75.0%	H21
3. まちづくり活動参加者数	人/年	賑わいの再生に向けてのまちづくり活動への住民参加の年間参加延べ人数	まちづくり活動への参加者が増加することにより、多くの意見を踏まえた良好なまちづくりができることから指標とし、初年度参加者数の6倍強の増加を目指す。	15人	H16	100人	H21

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(入込み客誘致活動の推進)</p> <p>(1)新幹線開業効果を市域の浮揚につなげるため、県外からの入込み客の増加を目指すことを目的に、八代シティ・プロモーションセンターやTMOやつしろ、商店街等の団体との連携により、新駅を起点とし、中心市街地を經由し歴史的観光地(日奈久温泉)を結ぶ新たな観光ルートを開発する。また、新たな観光ルートに付随した観光マップを作成し、観光客へのサービス向上に努める。</p> <p>(2)新八代駅利用者や中心市街地への観光客に対し、観光施設の案内やイベント開催の情報提供を図るために案内板を設置する。</p> <p>整備方針2(交流空間の確保)</p> <p>(1)中心市街地のアーケードに面する既存空地や近接する既存緑地を効果的に整備することにより、「市民・駅利用者・観光客等」の憩い・語り・安らぎの場として利用者の利便性を高め、また、イベント等の様々な催物の開催スペースとして、多目的な利用を可能とする交流空間を確保し、賑わい創出のターミナルポイントとして有効活用を図る。</p> <p>(2)中心市街地においては、交通アクセス強化のほか、商店街等との連携を図り活力の再生を目指した“八代市の商店街”として固有の魅力を高める諸施策を積極的に推進し、集客の増加につなげ本市内における購買率のアップを図る。</p> <p>(3)新駅周辺地区においては、新たな広域交流拠点として新駅利用者等の利便性の向上を担う受け皿づくりを行う。</p> <p>①人々に潤いと安らぎを与えつつ、「市民・駅利用者・観光客等」が集い、交流するコミュニティの場となるとともに、災害時においては避難場所として機能を果たす公園の整備を行う。あわせて、新駅からの歩行者連絡通路を整備する。</p> <p>②新幹線の開業効果を最大限に活かすため、観光ルートの拠点としてふさわしい交通処理機能の整備充実が喫緊の課題となっており、新駅周辺におけるアクセス性を強化するために道路網整備を行う。</p> <p>(4)高質で良好な景観形成を図るため、八代らしい素材やデザインを用いた照明灯やモニュメントを整備する。</p>	<p>まちづくり活動推進事業(提案事業/ワークショップ・観光マップ作成)</p> <p>地域生活基盤施設(基幹事業/案内板) ※新駅周辺…広域観光案内、中心市街地…市街地内観光案内</p> <p>地域生活基盤施設(基幹事業/広場) 地域生活基盤施設(基幹事業/緑地) 道路(基幹事業/袋町本町一丁目線、塩屋町通町線) 自転車・歩行者道路整備事業(提案事業/水辺のブルムナード) 中心市街地アクセス強化事業(提案事業/本町一丁目2号線) 商店街活性化事業(提案事業/中心市街地内) 公園(基幹事業/新八代駅がめさん公園) 道路(基幹事業/竜西南北31号線) 道路(基幹事業/新八代駅前線、竜東西15・18号線) 道路(関連事業/新八代停車場線) 高質空間形成施設(基幹事業/照明灯、モニュメント)</p>
<p>整備方針3(市民参画によるまちづくり計画の取り組み)</p> <p>・新駅周辺地区等、新たなまちづくり(将来ビジョン等)について、市民の意見を寄せられる機会を設け市民と行政との協働によるまちづくり活動を積極的に展開していく。</p>	<p>まちづくり活動推進事業(提案事業/ワークショップ等)</p>
<p>その他</p> <p>○新たな観光客誘致に向けた住民参画によるまちづくり活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新八代駅周辺においては、ワークショップ等を活用し、広域交流拠点として、新たな玄関口にふさわしい「まちなみの景観形成」や「賑わいのある交流空間の創出」に取り組んでいく。観光客に対しては、目的地点の移動の利便を高めるために、新たな観光ルートを結び交通アクセス性の向上を目指し、交通事業者等との協議による移送サービスの検討等を行う。また、新駅は、様々な情報発信の基点となるポテンシャルを有することから、観光マップなど新たな観光情報のサービス提供にも努めていく。 ・中心市街地においては、観光ルートの設定にあわせて、商店街イベント事業や空き店舗活用事業、チャレンジストア事業等に対する支援を継続的に実施するとともに、各種団体との連携により、観光客に対する新たなサービス(観光案内・PRの実施、物産品の販売、イベント開催等)の提供に向けた検討を行う。また、本町アーケード周辺に位置する既存公園・広場等について、中心部の活性化に寄与する効果的な利活用方策について、今後検討を行っていく。 ・在来線・肥薩おれんじ鉄道の八代駅については、新八代駅を起点とした観光ルートを連絡する交通中継点として、中心市街地方面及び日奈久方面等へ、その流れを更に効果的につなぐ施策の検討に取り組んでいく。中でも、八代駅から中心市街地方面については、まちづくり総合支援事業(八代中央第一地区)の一環で整備された自転車・歩行者アクセスルートや都市計画道路「八代線の回廊線(自転車・歩行者専用道路)」のネットワークを活用し、自転車利用による軽快で機動的な街なか観光の展開について運用面も含め、施策の一つとして関係者とともに検討を行っていく。 ・日奈久温泉については、県下で最も古い歴史を持ち、「日奈久温泉丑の湯祭り」や「日奈久温泉スプリングフェスタ」をはじめ、数多くのイベントを開催し、観光入込み客の増加に努めている。また、今年度、日奈久地域活性化検討委員会を立ち上げ、日奈久地域の再生に向けた検討がおこなわれており、新幹線開業後の課題である新たな観光客の獲得に向けた中心市街地や市内の観光施設等との連携強化や、広域的な観光PRの展開等について検討をおこなう。 ・昨年度「新幹線やつしろ創り委員会」にて提言された、新幹線利用者等を含めた広域からの来街者に対する商店街や観光地におけるイベント情報の提供やPR活動等の諸施策については、関係団体との協働等により積極的に展開していく。 <p>○新八代駅周辺に求められる機能の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客を対象としたサービスの一つに、本市の特産品等を提供する機能が挙げられる。広域高速交通機関である新幹線利用者を介し全国PRにつながり、本市の物産(特産品)振興に寄与するものと考えられることから、本件については今後も関係機関とともに検討を行っていく。 <p>○交付期間中の計画の情報公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交付期間中において、目標に向け各種の事業を円滑に進め、市民の理解と賛同を得るためにも、各種事業の進捗状況を適宜、市民に情報公開する。 <p>○事業完了後の継続的なまちづくり活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業完了後についても、新幹線の全線開通を見据え、既存中心市街地の活性化や市町村合併後の地域特性を生かした特色ある観光振興等、新八代市の発展につなげるため、市民と行政との協働による継続的な活動により種々のイベントの企画、実施やPR活動に参画していく。 	

